

神戸市スポーツ推進計画  
- “アクティブシティこうべ” プラン -

神戸市

## 目 次

第1章	計画の概要	P 1～2
第2章	神戸市におけるスポーツの現状と課題	P 3～11
第3章	計画の目標と基本的考え方	P 12
第4章	“するスポーツ”の推進	P 13～14
第5章	“みる・ささえるスポーツ”の推進	P 15
第6章	日常的活動の推進	P 16
第7章	“神戸らしいスポーツ”の推進～国際スポーツ都市神戸	P 17～18
参 考	神戸市における主なスポーツ推進事業実施団体（2019年4月1日現在）	P 19

# 第1章 計画の概要

## 1. スポーツの意義と定義

### (1) スポーツの意義

スポーツは、人類が世代から世代へと継承してきた身体文化であり、少子高齢化、グローバル化、多様性の尊重といった社会変化の中で、スポーツの多様な価値が高まっています。この背景には、国連が2005年に制定した「スポーツと体育の国際年」(International Year of Sport and Physical Education)の影響が大きく、この年から、教育、健康、開発、平和を推進するためにスポーツと体育が重要な役割を果たすことが期待され、世界へと広がっていきました。

2011年、「スポーツ振興法」(1961年)は制定から50年ぶりに改正され、青少年の育成、地域の交流、健康増進、国際交流・貢献等スポーツの多様な価値を明文化した「スポーツ基本法」が制定されました。また、スポーツ基本法を実現するための「スポーツ基本計画」(第1期:2012年度、第2期:2017年度)においても、スポーツを通しての「共生社会や健康長寿社会の実現」、「多様性を尊重する世界の実現」、「持続可能で逆境に強い社会の実現」等、スポーツの新たな価値が加わりました。さらに、スポーツの「楽しさ」や「喜び」こそがスポーツの価値の中核であり、継続してスポーツを「する」ことで、勇気、自尊心、友情等の価値を実感するとともに、自らも成長し、心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現していくことができるとされています。

### (2) スポーツの定義

スポーツの定義は国によって異なります。我が国では、「スポーツ振興法」により『スポーツとは、運動競技および身体運動であって、心身の健全な発達を図るためにされるもの』と定義され、比較的広義に捉えられてきました。

本計画では、スポーツを「運動競技および身体運動であって、意識的なウォーキングやサイクリング、健康増進のための体操やトレーニング等を含むもの」と定義します。また、日常的活動とは、運動やスポーツに加え、洗面や清掃、歩行といった身体活動を含むものと定義します。

## 2. 計画の趣旨

神戸市では、「神戸市スポーツ振興プラン」（第1期：2011年度～2013年度、第2期：2014年度～2018年度）に基づき、すべての市民が日常的にスポーツ・健康づくりに取り組めるような環境づくりを目指して、具体的な施策を実施してきました。本計画は、「神戸市スポーツ振興プラン」を継承した計画として、スポーツ基本法第10条に基づき、国の「スポーツ基本計画」および「兵庫県スポーツ推進計画」（2012年度）を参考にし、神戸市の実情に即して策定するものです。

この計画では、「すべての市民、行政、学校・大学、スポーツ団体、民間事業者等が連携・協働し、日常的にスポーツ・健康づくりに取り組む“アクティブシティこうべ”を創る」ことを目指します。なお、アクティブシティとは、「主体的、活動的、健康的な生き方であるアクティブライフを推進する都市」のことで、アクティブシティが創られることにより、健康寿命の延伸と市民の生活の質の向上が期待されます。

## 3. 計画の期間

本計画の期間は、2019年度から2028年度までの10年間とし、概ね5年後に中間見直しを行います。

## 第2章 神戸市におけるスポーツの現状と課題

### 1. スポーツ施設・環境の現状と課題

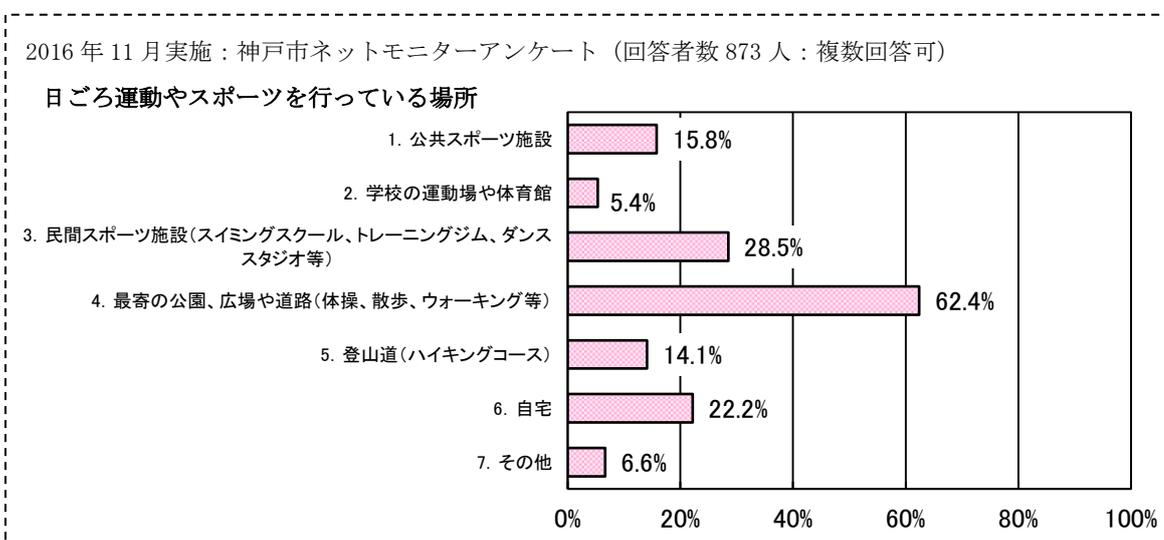
#### 【スポーツ施設等】

- 1) 公共スポーツ施設の神戸市での管理部局は、市民参画推進局、保健福祉局、建設局、みなと総局等と多岐にわたっています。大半の施設に指定管理者制度を導入し、利用時間の延長等のサービス向上を通じて、市民が利用しやすい環境づくりを進めてきていますが、地区体育館の利用率は非常に高く飽和状態となっており、子供たちが野球やサッカーをするグラウンドの整備を求める声も高まっています。一方、戦後の1950年に王子体育館を整備したことをはじめ、大規模スポーツイベントの開催に併せて建設を重ねてきましたが、そのほとんどの施設で老朽化が進んでおり、一部の施設においては、現状のままでは国際競技大会の開催にも影響が生じています。そのため、2020年の東京オリンピック・パラリンピック関連のホストタウン事業<sup>(注1)</sup>を行うにあたり、IF（国際競技連盟）基準を満たすための施設改修を実施してきました。また、2019年から始まるゴールデン・スポーツイヤーズ<sup>(注2)</sup>にかけて、外国人スポーツ愛好者の増加が予測されることから、スポーツツーリズムを推進するための環境整備も求められています。
- 2) 一方、屋外での運動をする環境としては、神戸マラソンを契機にランニングコースの整備がはじまりました。また、坂道の多い神戸での取り組みとして観光や通勤等での利用を目的に電動アシスト自転車のコミュニティサイクル（自転車シェアリング）を導入するとともに、東西に細長い市域を結ぶ自転車レーンの整備を進めているところです。
- 3) 全国に先駆けて先進的に取り組んでいる事例としては、女子の利用を優先に考えたグラウンドとして神戸レディースフットボールセンターを整備し、INAC 神戸レオネッサと連携した小学生女子サッカー教室や、中学生女子サッカー活動を実施しています。1989年のフェスピック神戸大会の会場にもなったしあわせの村では、高齢者と障がい者がインクルージョンとしてのスポーツを楽しむ機会を提供しています。また、そこで開催しているシルバーカレッジの卒業生の利用者も多く、シニアスポーツのメッカになっています。さらには、国際港都にふさわしく神戸レガッタ&アスレチック倶楽部等、外

(注1) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る「ホストタウン」として国の登録を受け、市民との交流事業や事前合宿に活用する既存スポーツ施設の改修等を行う事業。

国人を中心にしたスポーツクラブが存在し、活発に活動をしています。

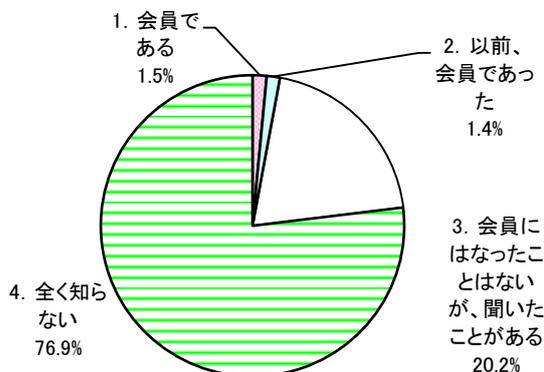
- 4) 神戸市ネットモニターアンケートによれば、市民がスポーツを行っている場所としては、最も多い回答であった「公園・道路・広場」(62.4%)や「学校体育施設」(5.4%)は、政令指定都市平均(それぞれ 69.5%、5.3%)とあまり差がありません。それに対して、2 番目に多い「民間スポーツ施設」は 28.5%で、政令指定都市平均(19.1%)を大きく上回り、逆に「公共スポーツ施設」は 15.8%で、政令指定都市平均(21.3%)より低い状況です(政令指定都市平均は 2016 年にスポーツ庁が実施した「スポーツ実施状況等に関する世論調査」による)。



- 5) 小学校を拠点に活動する神戸総合型地域スポーツクラブ(163 クラブ)では、2017 年 4 月時点で 43,627 人が会員となり、幼児から高齢者まで幅広い年齢で活動しています。活動を行うにあたっては、協議会を設け(全市連絡協議会、各区連絡協議会)、「区交流大会」や、卓球・バドミントン等全 10 種目からなる「全市交流大会」、会員以外の方も参加できる「あじさいロードレース」、トップチームの試合観戦会「神戸総合型地域スポーツクラブデー」を開催しています。また、情報発信を、ウェブサイトやメールマガジンで行っていますが、神戸市ネットモニターアンケートによれば、「神戸総合型地域スポーツクラブの会員である」と答えた方が 1.5%、クラブの存在を「全く知らない」と答えた方は 76.9%と認知度が低い状況です。一方で、神戸総合型地域スポーツクラブに、「自分に合うものがあれば取り組みたい」と答えた方は 8 割弱と高いニーズが示されています。

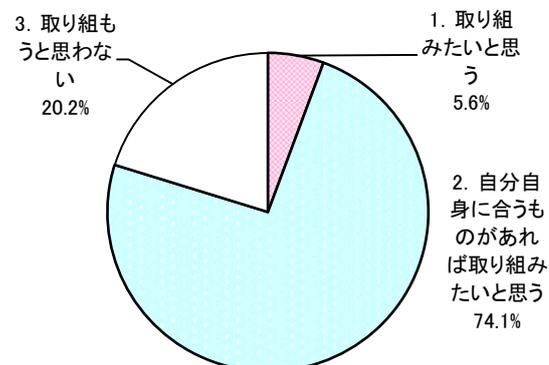
2016年11月実施：神戸市ネットモニターアンケート  
(回答者数1,999人)

#### 神戸総合型地域スポーツクラブの認知度



2016年11月実施：神戸市ネットモニターアンケート  
(回答者数1,969人)

#### 神戸総合型地域スポーツクラブでの活動意欲



## 【自然環境】

- 市街地に接する六甲山には多くのハイキングコースがあり、山頂付近には人工スキー場も整備されています。また、六甲山系の山筋を中心に、市民山の会をはじめ、多くのハイキング同好会が組織され、市民の毎日登山を支えています。山を活かした取り組みとしては、KOBE 六甲全山縦走大会が毎年開催され、多くの参加者を集めています。一方で、開催回数も多く、競技人口の増加が予測されるトレイルラン大会では組織化等が、また、過去に開催されたサイクリングのヒルクライム大会は定着していないことが課題となっています。
- 海に面した都市でありながら、ウォータースポーツの普及は充分ではなく、ヨットやレガッタ、さらにはSUP<sup>(注3)</sup>等を含めたウォータースポーツの普及が求められます。

## 2. スポーツイベント・大会等の現状と課題

### 【するスポーツ】

- 日常からスポーツに取り組む機会づくりとして、神戸市スポーツ教育協会が指定管理者となっている各体育館等において、市民ニーズを取り入れた多様なスポーツ教室が開催されています。また、スポーツ庁の公募事業「Specialプロジェクト2020(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業)」を受託し、特別支援学校で「パラスポーツ体験イベント」等を開催し、地域における障がい者スポーツの普及に取り組んでいます。

(注3) スタンドアップパドルのこと。大きなボートの上に乗る、パドルを使って漕ぐスポーツ。1960年代にハワイで生まれ、海だけでなく湖、川でも楽しむことができる。

- 2) 日頃の練習成果を発揮する機会としては、「市民体育大会」、「総合体育大会」、「六甲シティマラソン大会」等、市民が対象のスポーツイベントを開催しており、毎年11月には、兵庫県との共催で「神戸マラソン」を開催しています。また、50年以上の歴史があり、障がい種別を問わず、卓球、陸上、フライングディスク、水泳の各種目で年間延べ1,000人以上が参加する障がい者スポーツの祭典『神戸市障害者スポーツ大会』を開催しています。
- 3) また、神戸にゆかりがある一流のトップアスリートの協力を得て、様々な種目のスポーツ教室を開催しています。とりわけ、子供たちに夢や感動体験を与え、スポーツに取り組むきっかけとして、ヴィッセル神戸の選手による学校訪問事業（「夢で逢えたら」、「GOAL for SMILE プロジェクト」）やINAC神戸レオネッサの選手による学校訪問事業（「絆の時間」、「サッカー教室」）等を継続して実施しています。
- 4) 神戸市ネットモニターアンケートによれば、週1回以上のスポーツ実施率は、男性に比べて女性の方が低く、また、若い世代の実施率が低い結果が出ており、その対策が求められます。

2017年10月実施：神戸市ネットモニターアンケート（回答者数2,167人）

		全体	男性	女性
全年代平均		36.7%	47.3%	32.2%
年代別	18～20歳代	34.0%	34.8%	33.8%
	30歳代	24.4%	41.6%	21.3%
	40歳代	29.1%	31.2%	28.5%
	50歳代	44.2%	41.2%	45.7%
	60歳代	57.3%	60.2%	53.6%
	70歳代	68.3%	71.4%	61.1%

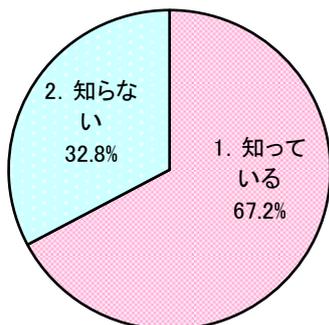
### 【みるスポーツ】

- 1) 市内においては、プロ野球（パシフィック・リーグ）、Jリーグ、なでしこリーグ、Vリーグ、ジャパンラグビートップリーグ、日本フットサルリーグ（男女）等、多岐にわたる競技でトップチームの試合が開催されています。また、陸上競技の日本グランプリシリーズの一つである兵庫リレーカーニバルや、全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）、全日本高等学校女子サッカー選手権大会、全日本高校・大学ダンスフェスティバル等、全国規模のスポーツイベントも毎年開催しています。
- 2) 神戸市ネットモニターアンケートによれば、例えば、ラグビーの世界大会であるラグビーワールドカップ 2019™ の神戸開催を問う項目では、67.2%

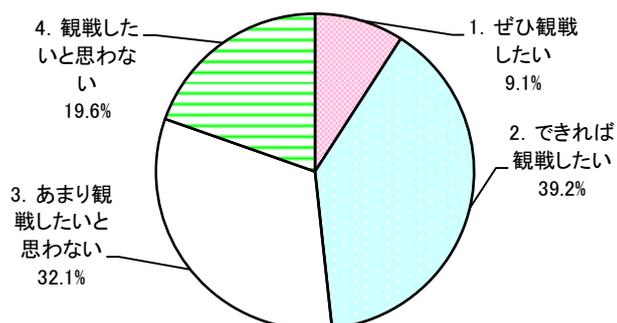
が「知っている」と答え、5割近くの方が観戦の意向を示しています。また、ラグビーワールドカップ 2019™神戸開催に向けた取り組みに対してのニーズでは、「ラグビーのルールが分かるイベント」(37.7%)が最も高く、「神戸で試合をする国の文化を知ることが出来るイベント」、「子供向けのイベント」がそれに続いています。

2018年1月実施：神戸市ネットモニターアンケート（回答者数 2,920人）

ラグビーワールドカップ 2019™の認知度



ラグビーワールドカップ 2019™の観戦意欲



神戸市ネットモニターアンケート（速報値：2019年1月実施）

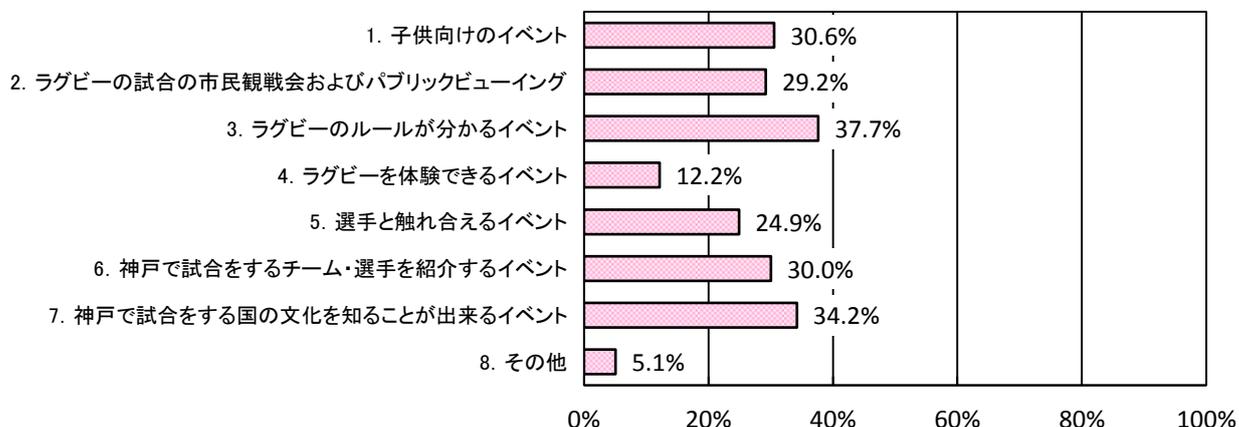
ラグビーワールドカップ 2019™の神戸開催を「知っている」 67.2%→**82.8%**

ラグビーワールドカップ 2019™「ぜひ観戦したい」、「できれば観戦したい」 48.3%→**53.3%**

大会開催に向けたPR活動の結果、認知度・参加意欲ともに向上している。

2018年1月実施：神戸市ネットモニターアンケート（回答者数 2,920人：複数回答可）

ラグビーワールドカップ 2019™神戸開催に向けた取り組みのニーズ



### 【情報】

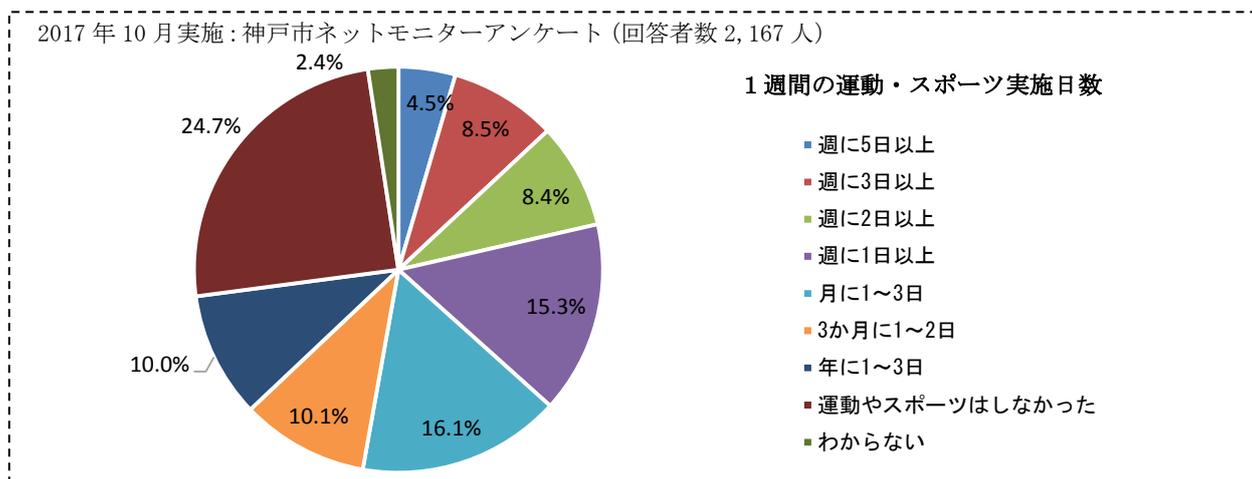
- 1) スポーツ施設の予約システムとして「あじさいネット」を開設し、パソコン等の端末での予約が可能であるが、その対象が野球場、球技場、テニスコートに限定されています。一方、神戸市スポーツ教育協会のウェブサイトでは同協会管理の各体育館の「空き状況」が検索できます。
- 2) 神戸市スポーツ教育協会には、52のスポーツ団体が加盟しています。また、その団体の1つである神戸市レクリエーション協会にはさらに10団体が加盟していますが、これらの中でウェブサイトを開設している団体は3分の1にとどまります。

- 3) 外国人旅行者が増加していますが、外国語表示や翻訳にかかるアプリケーションの開発など、スポーツ情報の提供が遅れています。
- 4) 神戸を拠点に活動しているフットサルやバレーボールなどのトップリーグに属するチームの周知が十分に図られていません。

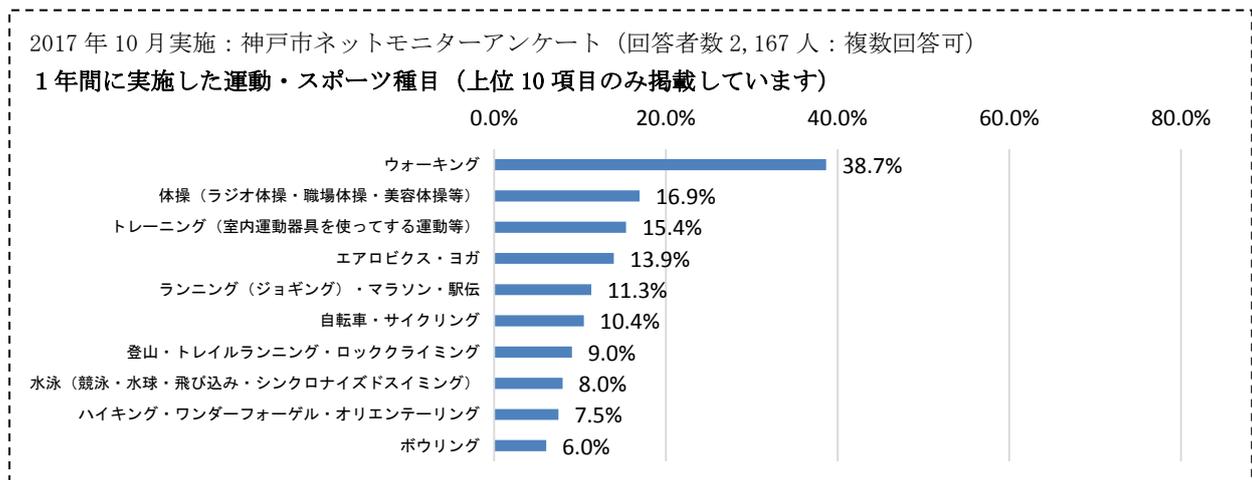
### 3. スポーツに関わる人の現状と課題

#### 【実施者】

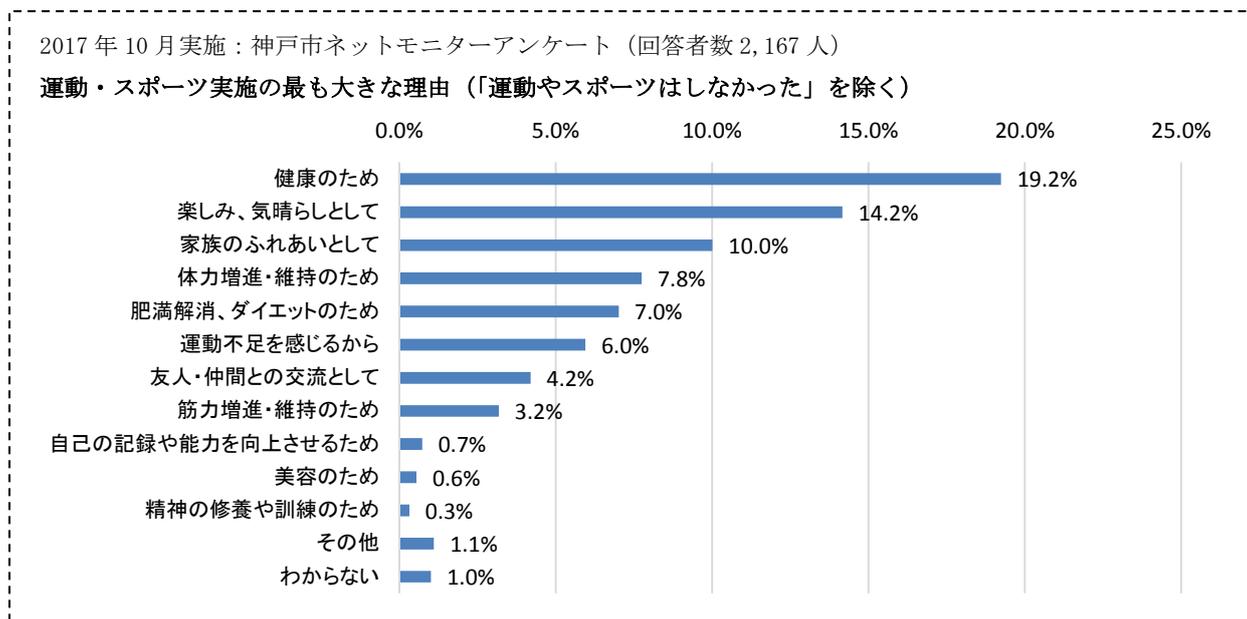
- 1) 神戸市ネットモニターアンケートによれば、週1回以上のスポーツ実施率は36.7%、週3回以上は13.0%となっています。全国平均は、週1回以上が51.5%、週3回以上は26.0%であり、本市の実施率は、全国に比して低い結果となっています（全国平均は2017年にスポーツ庁が実施した「スポーツ実施状況等に関する世論調査」による）。



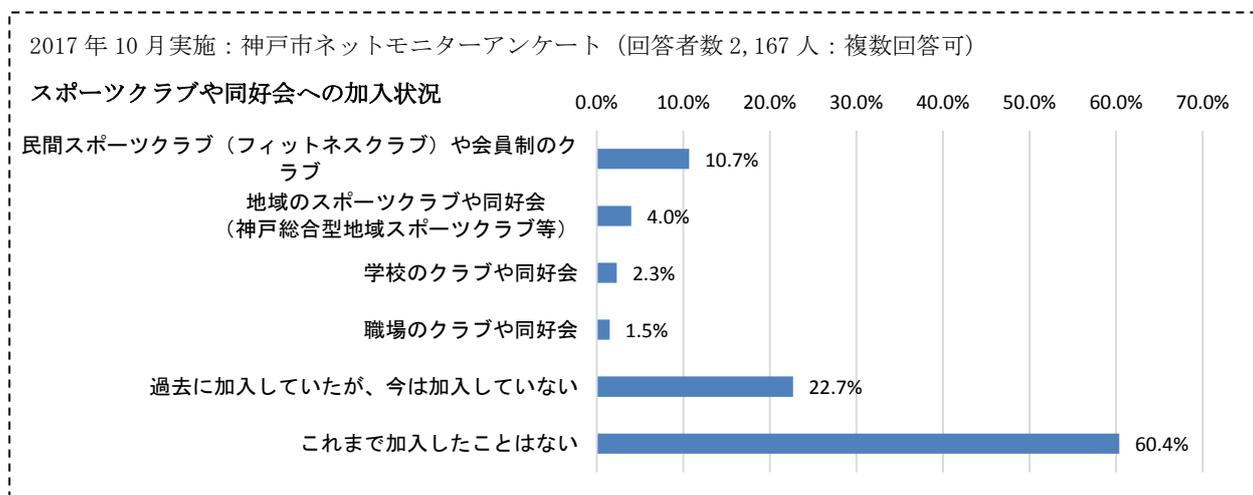
- 2) 1年間に実施した種目は、「ウォーキング」が最も多く、「ラジオ体操や職場体操等」、「室内運動器具を使ってする運動等」、「エアロビクス・ヨガ」、「ランニング」と続いており、個人の運動・スポーツが多く、中でも「登山」実施者は、全国平均の2.3倍にも上っています（全国平均は同年にスポーツ庁が実施した「スポーツ実施状況等に関する世論調査」による）。



- 3) スポーツ実施の最も大きな理由は「健康」で、「楽しみ・気晴らし」、「家族のふれあい」の順となっています。



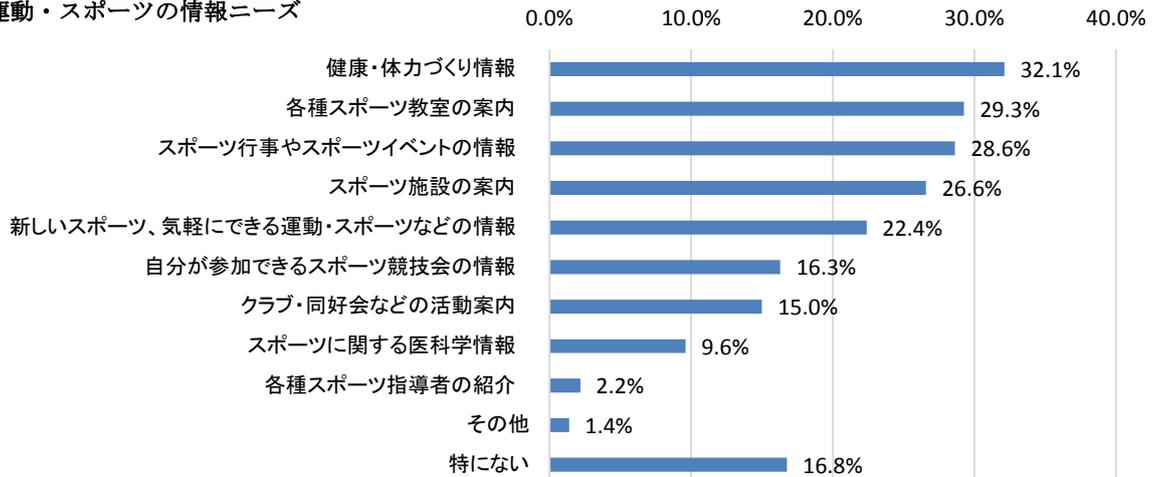
- 4) スポーツクラブや同好会などへの加入状況割合は18.5%と低く、所属内訳は、「民間クラブ」、「地域クラブ」、「学校クラブ」、「職場クラブ」の順となっています。



- 5) 運動・スポーツの情報ニーズは、1位「健康・体力づくり」、2位「スポーツ教室の案内」、3位「イベント情報」の順で、今後始めたい運動・スポーツの分野は、1位「エアロビクス・ヨガ」、2位「ウォーキング」、3位「室内運動器具を使ってする運動等」の順となっています。

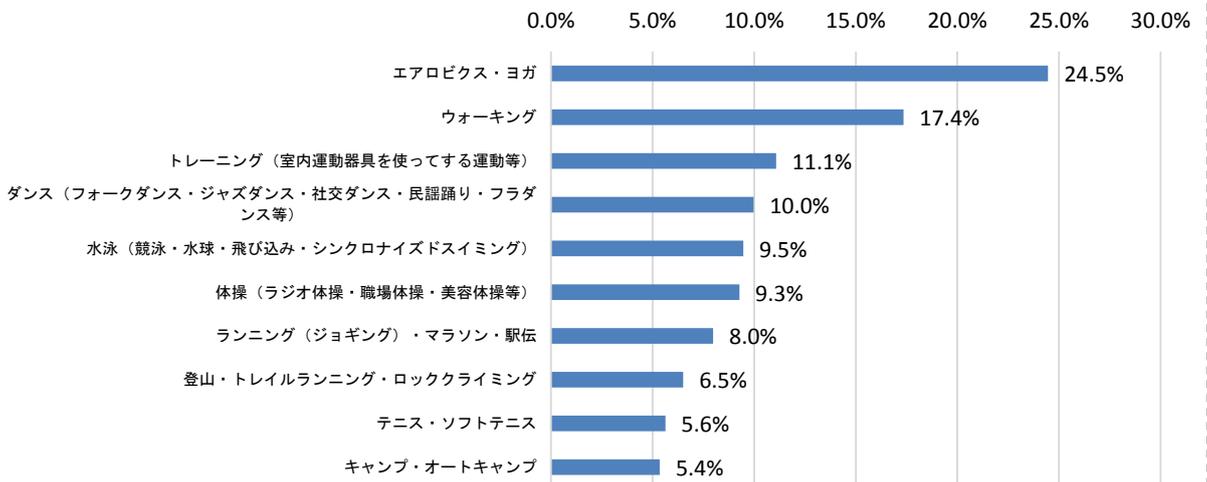
2017年10月実施：神戸市ネットモニターアンケート（回答者数2,167人：複数回答可）

運動・スポーツの情報ニーズ



2017年10月実施：神戸市ネットモニターアンケート（回答者数2,167人：複数回答可）

今後始めたい運動・スポーツ（上位10項目のみ掲載しています）



6) 競技力の向上（ハイパフォーマンス）への取り組みの結果、多くの優秀なアスリートや指導者が輩出されています。具体的にはアーティスティックスイミング、ウエイトリフティング、サッカー、女子サッカー、テニス、フィギュアスケート、野球、ラグビー、陸上競技並びに、障がい者スポーツ競技における水泳、陸上競技等多岐にわたっています。

7) 神戸港開港（1868年）に伴い外国人居留地が開設されたこと等を契機に、神戸には多くの外国人が移り住んできました。近年、人口に占める外国人の割合は増加傾向にあり、スポーツを通じた共生社会の実現が望まれます。

【指導者】

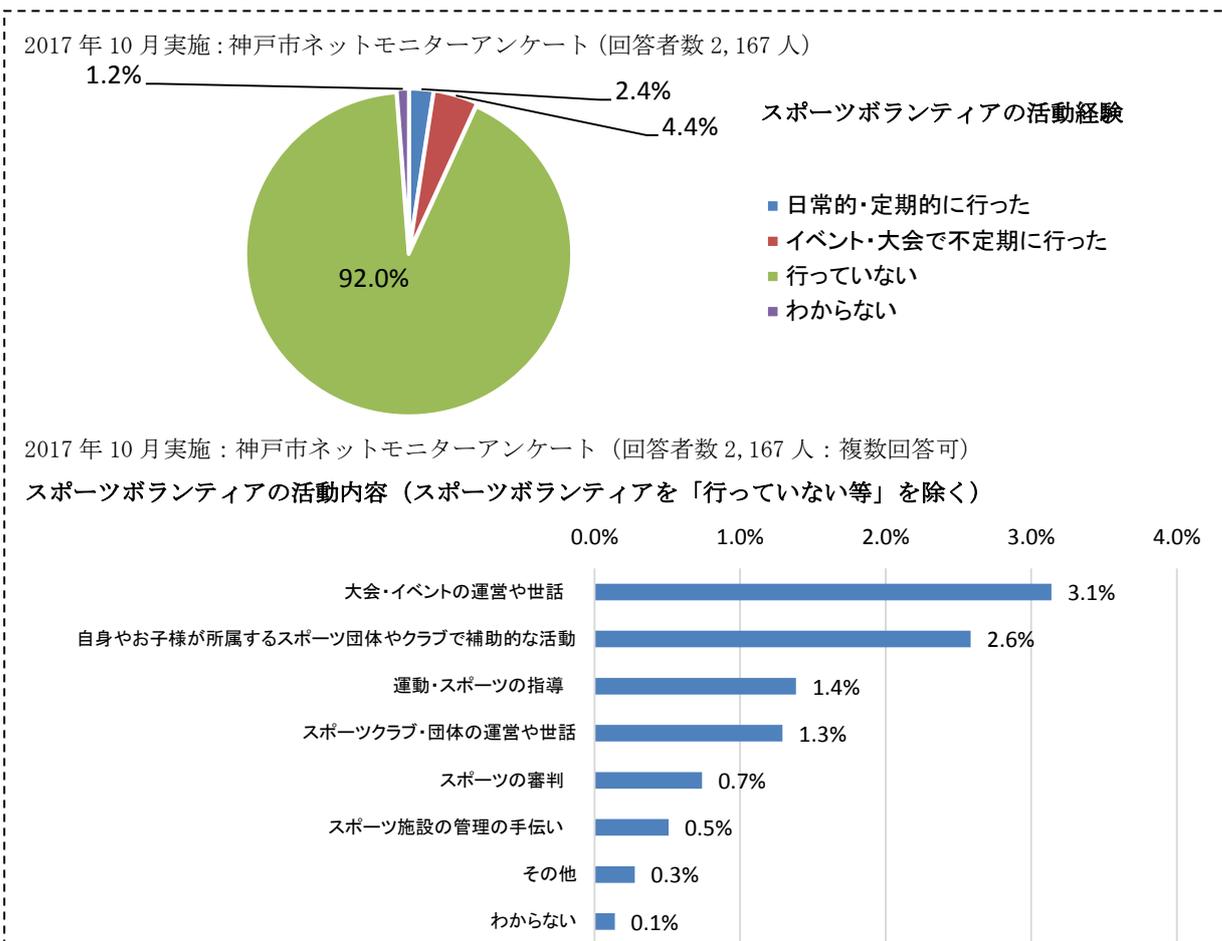
1) 総合型地域スポーツクラブの運営に有用な資格である「アシスタントマネジャー」の講習会や、「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」、さらには

中学生を対象に部活動や地域で活躍できる人材を育成する「こうべジュニアスポーツリーダー講習会」等を開催しています。

- 2) 市内には、優秀な有資格スポーツ指導者やアスリート、スポーツドクターが多く存在すると考えられますが、相互に連携・協働する場など、ネットワークが整備されていません。

### 【ボランティア】

- 1) スポーツボランティアとしての活動経験を神戸市ネットモニターアンケートによって調査したところ、「日常的・定期的に取り組んでいる」という回答は2.4%、「行っていない」という回答が92.0%にも上っています。また、活動をしている場合に、その内容で最も多かったのが「大会・イベント運営や世話」というものでした。



- 2) 神戸マラソンでは、約7,200名のボランティアが大会を支えています。日常的にスポーツボランティアの育成に関する講習会などは開催されていません。

ビジョン

“するスポーツ”、“みるスポーツ”、“ささえるスポーツ”を推進し、すべての市民が日常的にスポーツ・健康づくりに取り組める環境づくりを目指す。

ミッション

すべての市民、行政、学校・大学、スポーツ団体、民間事業者などが連携・協働し、スポーツへの参加意欲を育むことで

「アクティビシティこうべ」を創る

みる・ささえるスポーツの推進

1. みるスポーツ環境の整備とスポーツplus
2. 質の高い指導者とボランティアの養成と活用
3. スポーツ団体等の連携・協働およびガバナンスの強化
4. 神戸市におけるスポーツ情報の一元化

するスポーツの推進

1. スポーツ施設の整備
2. 幼児・子供のスポーツ環境・機会の充実
3. 若者・壮年のスポーツ環境・機会の充実
4. 女性・高齢者・ファミリーのスポーツ環境・機会の充実
5. 障がい者のスポーツ環境・機会の充実

日常的活動の推進

1. 歩き・走り・自転車移動しやすい環境の整備
2. 家庭における日常的活動の推進
3. 職場における日常的活動の推進
4. バリアフリー環境の整備

神戸らしいスポーツの推進

1. 自然を活かしたスポーツ環境の整備
2. 神戸発祥のスポーツなどの推進
3. 子供や若者が楽しめるスポーツ環境の整備
4. スポーツツーリズムの推進
5. 産業や大学等との連携によるハイパフォーマンス環境の整備

数値目標

※ ( ) 内の数字は2017年度の実績

- 1) 週1回以上のスポーツ実施者が65.0%(36.7%)になることを目指す。
- 2) 週3回以上のスポーツ実施者が25.0%(13.0%)になることを目指す。
- 3) スポーツ未実施者が15.0%(24.7%)になることを目指す。
- 4) スポーツクラブ加入者が25.0%(18.5%)になることを目指す。

## 第4章 “するスポーツ”の推進

### <重点分野>

#### 1. スポーツ施設の整備

スポーツ施設の利用率は非常に高く、なかでも各区の体育館利用は飽和状態となっています。また、施設の老朽化への対応や、少年野球等のグラウンドやプール、スケートリンク等の整備を求める声も高まっています。一方で、施設の整備にあたっては、人口減少・少子高齢化といった人口動態の変化を視野に入れてその考え方を整理することも大切です。いずれにせよ、スポーツ競技種別ごとの実施状況、利用者ニーズ、施設の分布状況などの環境評価を実施し、ストックの適正化を図り、施設の整備を推進していきます。また、市街地の遊休資産をスポーツの場として活用するなど、地域において身近にスポーツに参加する機会の確保に努めていきます。

#### 2. 幼児・子供のスポーツ環境・機会の充実

幼児期における運動は体力・運動能力の向上をはじめ、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりする等大きな意義をもっています。また、幼児期から体幹を強くすることは、ゴールデンエイジ（動きの巧さを習得するのに最も適した時期：9歳～12歳頃）に運動能力を高めるための基礎を形成することにつながります。幼児・子供がスポーツに取り組みやすい環境づくりや、楽しみながら取り組める運動遊びの推進等を通じて体力・運動能力の向上を図るとともに、スポーツを好きになる子供を増やしていきます。

#### 3. 若者・壮年のスポーツ環境・機会の充実

若い世代は、進学するにつれて運動・スポーツをしない割合が増加することから、スポーツに親しみやすい環境を充実させます。壮年世代には、スポーツをするためのまとまった時間や場所が確保できない方も多いため、日常生活において気軽に取り組めるウォーキングや階段の上り下り等もスポーツであるという考えを普及させていきます。また、神戸総合型地域スポーツクラブの取り組みを充実させ、若者・壮年をはじめ、多世代にわたる実施者を増やしていきます。

#### 4. 女性・高齢者・ファミリーのスポーツ環境・機会の充実

国や神戸市の調査では、男性に比べて女性の方がスポーツ実施率が低いという結果が出ています。特に、女性の実施率が低い30歳代、40歳代は子育ての時期と一致していますが、そのようなことを考慮した参加しやすい環境の整備やイベント等の充実を図ります。実施率が高い高齢者については、フレイル予防等の観点からも、無理なく取り組める健康づくりプログラム等の充実を通じて、健康寿命の延伸につなげます。

#### 5. 障がい者のスポーツ環境・機会の充実

障がい者スポーツに関しては、取り組める場所や機会が限られています。障がい者スポーツに対する理解を深め、障がいのある方もない方もともにスポーツに取り組める環境づくりとして、インクルーシブなプログラム<sup>(注4)</sup>を推進するとともに、指導者の養成などにより、障がい者スポーツに取り組む環境づくりに努めます。

(注4) 障がいや性別、年齢、民族、技術レベル等に拘らず、多様な個人が共に楽しむことができるプログラム。

## 第5章 “みる・ささえるスポーツ”の推進

### <重点分野>

#### 1. みるスポーツ環境の整備とスポーツ plus

神戸市では、野球、サッカー、バレー、アメリカンフットボール、ラグビー、フットサルといった競技でトップチームの試合が盛んに行われています。トップアスリートが競技する姿を間近でみることや、トップアスリートの功績を讃え、その存在を身近に感じることが、市民に夢と希望や感動を与えるとともに、スポーツに関わるきっかけにもつながることから、スポーツを「みる環境」の充実に取り組みます。また、スポーツを単体で捉えるのではなく、スポーツと音楽・ファッション・グルメ・文化等、多方面との連携・協働を図ることで、スポーツに関わる機会を増やす「スポーツ plus」の取り組みの推進に努めます。

#### 2. 質の高い指導者とボランティアの養成と活用

継続的なスポーツ実施者を増やすためには、質の高いスポーツ指導者の養成が重要です。また、神戸マラソンのような大規模スポーツイベントでは、数多くのスポーツボランティアが大会運営をささえています。このようなスポーツを「ささえる」取り組みについて、指導者やボランティアが活躍する機会の充実や、講習会等を通して技能の向上を図り、スポーツをささえる人材を養成していきます。

#### 3. スポーツ団体等の連携・協働およびガバナンスの強化

スポーツの普及・啓発・運営・指導等を行う競技団体をはじめとしたスポーツ関係団体が相互に連携・協働する環境づくりに努めるとともに、スポーツ振興に関わる企業等との連携を進め、より多くの市民が日常的にスポーツ、そして健康づくりに取り組める環境を広げていきます。

#### 4. 神戸市におけるスポーツ情報の一元化

神戸市のスポーツに関する取り組みは、スポーツ振興の部署のみならず、例えば健康福祉や公園の活性化等様々な観点から複数の部局で行うなど、所管が多岐にわたっています。そこで、スポーツ・健康福祉・公園等の事業に関する情報や、多くのスポーツに関わる情報を一元的に発信し、市民がスポーツをする・みる・ささえるうえで必要なデータを入手しやすい環境を整備します。

## 第6章 日常的活動の推進

### <重点分野>

#### 1. 歩き・走り・自転車移動しやすい環境の整備

運動不足を感じながらもスポーツをする時間が取れない場合には、歩く・走るといった日常的な動作を増やすことも非常に有効です。1日の歩く歩数を1,000歩増やすことで、将来の病気を予防することができるとも言われており、健康効果が期待されます。自転車で快適に移動できる自転車走行空間等の整備に加え、市内に点在するランニングコース・ランニングステーションの案内や、歩く・走ることによる効果を示す等、市民がスポーツに取り組みやすい環境づくりを推進します。

#### 2. 家庭における日常的活動の推進

家庭におけるストレッチや散歩に加え、洗面や清掃といった日常的活動を意識的に行うことで、普段スポーツをする習慣のない人が、身近に身体を動かす動機づけにつながります。激しい運動や勝敗を競うことだけがスポーツではなく、目的や楽しみをもって意識的に身体を動かすこともスポーツであるという考え方を広め、家庭における日常的活動を推進します。

#### 3. 職場における日常的活動の推進

職場内での移動や通勤時での階段利用の促進、オフィスでのスタンディングデスクやバランスボールの導入、更衣室の配置の工夫等、アクティブな就業環境づくりによる「健康経営<sup>(注5)</sup>」の取り組みが広がりつつあります。企業内部での取り組みを促し、職場における日常的活動を推進します。

#### 4. バリアフリー環境の整備

健常者も障がい者も一緒になって楽しめるインクルーシブなプログラムの推進に向け、多様なスポーツプログラムが展開されている市内公共施設等において、バリアフリー環境の整備を目指します。

(注5) 経済産業省によれば、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。

## 第7章 “神戸らしいスポーツ”の推進～国際スポーツ都市神戸～

### <重点分野>

#### 1. 自然を活かしたスポーツ環境の整備

神戸市には、市街地のすぐ近くに豊かな自然が数多くあります。六甲山をはじめ、遠浅化整備が完了しビーチバレーボール等様々なイベントが催されている須磨海岸、日本最大級の規模を誇りSUP等のウォータースポーツが楽しめる兵庫運河等の自然あふれる環境を、スポーツにも最大限に活かす取り組みを進めます。市民が親しみやすく、また、国内外から訪れる観光客にとっても大きな魅力となるよう、神戸らしいスポーツへの取り組みを、年間を通じて積極的に推進します。

#### 2. 神戸発祥のスポーツなどの推進

神戸市は、神戸港開港以来、海外から様々な文化・スポーツを取り入れ、ゴルフ、マラソン、登山、ボウリング、ボクシングをはじめ、トップチームが本拠地を置くサッカーなどのスポーツの発祥の地となり、全国各地へと広がっていきました。また、柔道やテニス、乗馬なども神戸にゆかりがあります。マラソン発祥の地としての記念碑建立や、高等学校女子サッカーの最高峰である全国高等学校女子サッカー選手権大会を継続開催するなど、神戸発祥のスポーツや神戸ゆかりのスポーツを大切にし、聖地化することで、市民の関心を高め、スポーツ参加につながる取り組みを推進します。

#### 3. 子供や若者が楽しめるスポーツ環境の整備

東京2020オリンピック・パラリンピック競技には、新たにスポーツクライミングやスケートボード、3人制バスケットボール等、若者に人気のある種目が新たに採用されました。また、最近では、個人で参加して、フットサル競技を楽しむ「個サル」等、個人のライフスタイルに合わせた多様なスポーツ参加のあり方も注目されています。このような次代を担う子供や若者を惹きつけるスポーツ環境を整備・維持し、スポーツ実施率の向上、さらには若者に選ばれるまちづくりにつなげていきます。

#### 4. スポーツツーリズムの推進

神戸市では、野球、サッカー、バレー、アメリカンフットボール、ラグビー、フットサル等多くの競技でトップチームが活躍しています。また、国際スポーツ都市神戸として、ラグビーワールドカップ2019™の誘致やワールドマスターズゲームズ2021関西で6競技の会場運営を実現しています。引き続き

きトップレベル・世界的なスポーツイベントの開催に取り組み、スポーツを通じて国内外に神戸の魅力発信につながるスポーツツーリズムの取り組みを推進し、地域や経済の活性化につなげます。

#### **5. 産業や大学等との連携によるハイパフォーマンス環境の整備**

神戸市では、「スポーツ産業懇話会」が設立され、「神戸におけるスポーツ産業規模の拡大」、「スポーツシティとしての知名度向上」を目標に、具体的な事業の検討や提言等が実施されています。また、全国でも有数の大学集積都市でもあります。スポーツ産業や大学等との連携・協働を進め、その技術や知見が市民のスポーツ実施に活かされるような取り組みを推進していきます。

## (参考) 神戸市における主なスポーツ推進事業実施団体 (2019年4月1日現在)

[50音順]

### ●神戸市公園緑化協会

市内にある公園(一般公園、有料公園)や公園内の運動施設において、「花・緑」、「環境学習」、「スポーツ振興」、「健康増進」等の市民ニーズの高いテーマの取り組みを付加した運営を基本に市民等と協働で公園の活性化を図り、市民が親しみやすく、かつ安全に利用しやすい公園緑地のマネジメント事業を行っている。

### ●神戸市立高等学校体育連盟

市立高等学校(高等専門学校を含む)生徒・教職員で組織され、高校総体等の開催や競技力向上に取り組み、市立高等学校生徒の健全な発達を促すために、体育・スポーツ活動の普及と発達を図ることを目的としている。

### ●神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター

「神戸市障害者スポーツ大会」をはじめ、障がい者のスポーツ大会や教室の開催を通して、障がい者の機能回復と健康の増進や競技力の向上を図っている。また、障がい者のスポーツに関する情報発信やスポーツリーダーの養成を行い、障がい者の地域社会への参加と自立を育てる機会を提供している。

### ●神戸市生涯体育大学同窓会

スポーツを通じて心身の健康を維持し、会員相互の親睦を図ること等を目的に神戸市生涯体育大学の修了者で組織されている団体。会員それぞれが、好きな種目に入り、日常的にスポーツを通じた健康づくりに取り組んでいる。

### ●神戸市小学校スポーツ協会

市立小学校の児童の健全な成長を願い、誰もがスポーツ・運動遊びの楽しさや仲間との交流の素晴らしさ、また、体を動かすことの喜びを味わうことのできるスポーツ活動の育成に努めることを目的とし、放課後等に校内にてスポーツや地区交流会を行っている。

### ●神戸市少年団

神戸市長を団長とし(事務局は神戸市市民参画推進局)、小学生を中心とした青少年が相互の友愛に基づく自主的なスポーや野外活動等の集団活動を通して、豊かな心とすこやかな体を育むとともに、神戸を知り、神戸を大切にすることを育てることを目的とする。

### ●神戸市スポーツ教育協会

市民の健康増進を図るため、市民皆スポーツを基本理念に、「神戸市民体育大会」をはじめ様々な市民スポーツ大会を開催している。神戸レディーズフットボールセンターの管理運営や指定管理者として体育施設の管理運営を行い、種々のスポーツ教室を開催し、スポーツイベントの誘致や指導者の人材育成等にも取り組んでいる。

### ●神戸スポーツ産業懇話会

神戸商工会議所が、神戸のスポーツ産業関係者(企業・有識者等)がスポーツ競技の枠を超えて、事業の検討・実施、提言・要望活動の他、メンバー相互に意見交換・交流・懇談ができる産学交流、連携の場とするため設立した。ゴールデン・スポーツイヤーズを見据えて拡大が見込まれるスポーツ産業に着目し、地域経済活性化に向けた検討や事業の実施、行政等への要望・提言を進め、「神戸経済の活性化」と「都市ブランド力の向上」を図っている。

### ●神戸市スポーツ推進委員連絡協議会

神戸市のスポーツ推進のための事業実施等を行う神戸市スポーツ推進委員の組織であり、協議会を中心に「事業部会」、「広報部会」の2つの部会において、各区の連携を図りながら地域のスポーツ推進役としてスポーツイベントの運営・支援に取り組んでいる。

### ●神戸総合型地域スポーツクラブ全市連絡協議会

地域の自主・自立による運営を行っている神戸総合型地域スポーツクラブが相互の連絡と親睦を深めるうえで、スポーツイベントである「あじさいロードレース大会」や「全市交流大会」を開催する等、クラブの活動の活性化を通じたスポーツ振興に取り組んでいる。

### ●神戸市中学校体育連盟

市内中学校生徒・教職員で組織され、中学校総体等の開催や中学校体育に関する調査研究等を行い、市内中学校生徒の健全な心身の育成、体力の増強及び体育・スポーツ活動の振興を図ることで中学校教育の充実と発展に寄与することを目的としている。